私の物語 my story

このコーナーでは、地域福祉のキーパーソンや実践者・当事者らのエピソード・想いを紹介していきます。

私のモットー

今、この瞬間を大切に！
一生懸命生きる！

絵の力を信じて子どもたちを見守り、命の尊さを伝え続けたい

中嶋（なかじま） 洋子（ようこ）さん
（神戸市）

Personal History

昭和57年	アトリエ太陽の子を開設
平成7年	阪神・淡路大震災で被災（被災3カ月後にアトリエを再開）
平成23年	東日本大震災の翌日から「命の一本桜プロジェクト」開始
平成27年～	内閣府主催防災チャレンジプラン「防災教育特別賞」、兵庫県功労賞「震災復興功労賞」、消防庁「日本防災・防災協会長賞」受賞

大震災を乗り越えて再開した絵画教室

子どもの頃から私は絵を描くことが大好きでした。芸術大学を卒業後、幼稚園児から小学生を対象とした絵画教室「アトリエ太陽の子」を神戸市で開設し、子どもたちへの指導と自分の制作活動で充実した日々を送っていました。それが、阪神・淡路大震災で教え子の姉妹二人を亡くしたことで、その後の私の人生は大きく変わりました。

尊い命を奪われ「芸術家の私はなんて無力なんだろう」と苛まれていた中、保護者たちから「子どもが暗闇を怖がるようになった」「笑顔がなくなった」などの声が相次いで届くようになりました。私は子どもたちの心を危惧し、震災の3カ月後、教室の再開を決意しました。久しぶりの再会で緊張していた子どもたちも、絵を描くうちに笑顔が見え、鼻歌まで聞こえてきたのです。その瞬間、子どもたちの心を癒す絵画の可能性を感じました。

真剣に中嶋さんの話を聞く子どもたち。「震災・命の授業」にて

絵を通して命の尊さを伝える

震災以降、毎年、子どもたちに「震災・命の授業」をしています。当時の映像を流し、震災のこと、あの日亡くなった姉妹のこと、命の尊さについて涙ながらに伝えます。そして、「もし私があの日、あの場所にいたなら」と想像力を高めて震災や防災をテーマに絵を描いてもらい、命の尊さと防災を学んでもらう機会にしています。

東日本大震災以降は、被災地の小・中学生の心を癒し、生きる活力としてもらうために全校生徒で模造紙に大きな一本桜を描く「命の一本桜プロジェクト」の活動をしています。子どもたちから「こんなに楽しいことは久しぶりだ」、地域の人からも「絵を見て大人も元気づけられた」と嬉しい声を多くもらっています。

元気いっぱいで「命の一本桜」を制作する児童たち
（気仙沼市立面瀬小学校）

生きていることへの感謝

「子どもたちの心を癒す」これが私の使命だと思っています。未来を担う子どもたちを絵画を通して見守り、寄り添い続けたい。そして「生きているって当たり前じゃない。本当に有り難いこと」という思いで、災害で亡くなった人の悔しさや想い、命の尊さをこれからも伝え続けていきます。